

授業概要

科目名		実習ゼミⅥ			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	30回	時間数	60時間	(2単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科4年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕									
成人における言語障害について、失語症及び高次脳機能障害を中心として、鑑別診断、症候、タイプや重症度、予後を理解すると共に、基礎的な評価法と記録、訓練法を身に付ける。									
〔授業全体の内容の概要〕									
学んだ検査法を確認し、言語聴覚士として必要な知識・技能、患者対応のあり方について学ぶ。									
〔講師の実務経験〕									
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕									
失語症の情報処理過程の把握									
回数	講義内容								
1	スクリーニングテストの使い方と実施、MMST								
2	失語症の障害メカニズムと訓練法に基づき 聴覚的理解の情報処理過程								
3	〃 呼称の情報処理過程								
4	〃 音読の情報処理過程								
5	〃 書称の情報処理過程								
6	SLTAの各項目の情報処理過程の確認 ・聴くの項目								
7	〃 ・話すの項目								
8	〃 ・読むの項目								
9	〃 ・書くの項目								
10	ビデオで臨床検討 ・症状の把握と訓練計画立案について・Broca失語								
11	〃 wernicke失語								
12	〃 超皮質性、運動失語、感覚失語								
13	〃 重度失語症								
14	〃 高次脳機能障害								
15	高次脳機能障害を伴う失語症の訓練について								
16	WAB検査実施								
17	WABの検査について（特徴、分類、採点法、等）								
18	症例ビデオ検証								
19	WABの実施								
20	WAB失語症検査の特徴説明、前頭葉検査、ケースビデオ								
21	WABの実施								
22	コミュニケーションの方法、脳血管障害3主要病型、PACE								
23	コース立方体組み合わせテスト								
24	PACE、WAB								
25	WAB実施、評価								
26	レーブン色彩マトリシス、重度失語症検査、N式老年者用精神状態スケール								
27	ビデオ臨床研究								
28	Dysarthria構音訓練、コース立方体、書字障害								
29	失行、ベントン視覚記銘テスト								
30	WAB失語症検査（臨床現場での効用について）								
【 準備学習・時間外学習 】									
【 使用テキスト 】									
書籍名					著者名		出版社		
言語聴覚士テキスト 第3版					大森孝一ほか		医歯薬出版株式会社		
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】									
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。									